

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	先端科学技術支援センター	現指定管理期間	平成 30 年～令和4年(5年間)
指定管理者	日本管財(株)	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持 管理 業務	清掃 (一般清掃) ゲスト棟/床・テーブル・イス ゲスト棟/客室ベッドメイク他 利用後の清掃/毎回 (特別清掃) カーペット清掃 ガラス清掃 1回/年	客室、セミナー等の屋内及び 施設外周等の日常清掃及び 定期清掃を実施した。	◎	◎	
	設備保守管理 (建物・工作物) 日常:1回、定期:2回/年 (電気設備) 日常:1回、定期:6回/年 (空調設備) 日常:1回、定期:2回/年 (給排水衛生設備等) 日常:1回、定期:~2回/年 (消防・防災設備) 日常:1回、定期:2回/年 (自動ドア) 4回/年 (昇降機設備) 12回/年	消火・防災設備、電気設備、 空調設備、昇降機、電話交換 機、自動ドア等の点検・検査 を実施した。	◎	◎	
	植栽管理 生垣/剪定・薬剤散布 芝生/草刈り・除草剤散布 樹木・竹藪/剪定他	草刈り、剪定、除草、害虫駆 除等を実施した。(随時)ま た、倒木竹の処理もした。	◎	◎	
	警備 日常警備:昼・夜間 機械警備:セコム	職員に対する危機管理を図 り、利用者に対する安全を確 保し、安心感を与えた。	◎	◎	
	小規模修繕 発生時	水道水漏れ修繕等(客室トイ レ、障害者トイレ、他)、排水 管詰まり清掃、電話設備(内 線電話不通対応)、電気関係 修理(客室天井照明灯他取 替)などを実施した。	◎	◎	
	法定点検の実施	定期的	定期的に対応した。	◎	◎
	運 営 業務	開館時間:9時~21時 休館日:1月4日~12月28 日	同左	◎	◎

	公共性・公平性の確保	利用者全員対象／人権の尊重・個人情報管理	公共施設としての役割を果たすために、公平・公正を旨として適切な対応に努めた。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	自主事業を活発に行い、こころ豊かな兵庫づくりの一翼を担う	新型コロナウイルス感染防止期間が多く、自主事業等の計画は出来なかった。	○	○
	利用者満足度調査結果（アンケート調査）	主にアンケート調査を行い、フィードバックして業務に反映する。	アンケート調査の結果を職員で共有して、業務に反映した結果、利用者から共感を得たが、レストランの営業時間が短縮したことによる不満が多くあり、対応に苦労した。	◎	◎
利用状況	利用者数	当センターの存在を広く知らしめ、会議室及び宿泊施設の利用者数の増加に努める。 [前年度:3,586人]	宿泊者数:4,521人(前年対比935人増)、会議室利用者数:8,489人(前年対比1,738人減)であった。	○	○
	施設稼働率	セミナー室については、地元住民に当センターの存在を知らしめて利用の促進を図るとともに、ゲストハウスについては、メディアを通じて、より広く集客力を高める。 [前年度:31.7%]	宿泊:39.9%、会議室:10.6%とやや増加した。 機会あるごとに利用促進に努めてきたが、新型コロナウイルス感染症の変異株の発生余波等でお客様の動向が不確かであり、利用自粛の影響は未だ解消できず、大きかった。	○	○
収支状況	収支計画と実績	指定管理料:71,290千円 利用料金収入予測:28,000千円	指定管理料:71,290千円 利用料金収入:18,840千円 収支通りの運用が出来、コスト削減できている。	○	○
	経費節減に向けた取組	きめ細かな施設維持管理を行い、経費節減に努める。	光熱水費の節減に力を入れた計画的な取組みを実施した。特に照明のLED化・水漏れ対応等で効果あり。事務消耗品等も節約節減した。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者の要望を把握するとともに、苦情が発生した場合は、早期に原因を究明し、誠意を持って対応する。	利用者の利便性を把握して、苦情等の無い様に適切な応接に努め、良い評価を得た。	◎	◎
	危機管理体制の確保	指揮監督体制を強化し、有事即応体制を確立する。	緊急連絡体制表の作成、消防・防災訓練の実施。	◎	◎
	県・関係機関との連携	県所管課・兵庫県立大学と連携を密にするとともに、迅速な県への報告連絡を行う。	県・県立大学他関係機関との連携を密にし、円滑な業務を推進していた。	◎	◎
	業務の再委託の状況	適切に行う。	問題なく遂行できている。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

指定管理者としての経験を活かし、規程、基準の充足を図り、適切な管理運営を行った。

令和4年度 総合評価シート

評価者：産業労働部新産業課

施設名	先端科学技術支援センター	現指定管理期間	平成30年～令和4年(5年間)
指定管理者	日本管財(株)	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

指定管理者としての経験を生かし、適切な管理運営を行った。
 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、積極的に集客するイベント実施は難しかったものの、利用者のニーズに沿った自主事業を実施したと認める。
 利用者アンケートにおいて高い評価を得ており(「再利用したい」95%、「接客態度良い、大変良い」89%)、宿泊者数、会議室利用者数ともに前年度を上回る実績であった。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

R3年度と比較して利用者数が増加しているが、新型コロナウイルス感染拡大前の水準には達していない。
 今後も県としては引き続き適切な指導、監督に努めるとともに、利用者サービスの向上のため、良好な管理・運営の継続と、有効な広報、アンケート実施などの取り組みを求めていきたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
			A	A

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県中央労働センター	現指定管理期間	令和3年～6年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県勤労福祉協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持管理業務	清掃	建物清掃・冷暖房設備運転管理・塵芥処理・環境衛生管理「空気環境測定・水質検査・害虫駆除・貯水清掃・排水設備清掃」	令和3年4月～令和6年3月の業務委託契約(3年契約2年目) 建物清掃・冷暖房設備運転管理・塵芥処理・環境衛生管理「空気環境測定・水質検査・害虫駆除・貯水清掃・排水設備清掃」 10,835,000円(税込み)	○	○
	設備保守管理	自家用電気工作物保安管理 エレベーター保守点検 冷暖房機保守点検 消防設備点検 駐車場自動精算機保守点検 PC ネットワークシステム保守等	業務委託契約により実施 ・自家用電気工作物保安管理(3年契約2年目) 389,400円(税込み)(令和3年4月1日～令和6年3月31日) ・エレベーター保守点検(3年契約2年目) 1,610,400円(税込み)(令和3年4月1日～令和6年3月31日) ・冷房機保守点検(3年契約2年目) 682,000円(税込み)(令和3年4月1日～令和6年3月31日) ・消防設備点検(3年契約2年目) 290,278円(税込み)(令和3年4月1日～令和6年3月31日) ・自動ドア、駐車場精算機保守点検(3年契約2年目) 416,900円(税込み)(令和3年4月1日～令和6年3月31日) ・予約管理システム保守等 132,000円(税込み)(平成26年4月1日～1年ごとの自動更新)	○	○

	植栽管理	(館外)毛虫除去・植栽の手入れ、屋上の枯葉処理 (館内)共用部の緑化の取り組み	・美観を損なわない程度の定期的な植栽、樹木への散水 ・屋上の排水溝に溜まる枯葉の定期除去 ・中庭の高木等管理、近隣建物敷地内への侵入確認、および伐採 ・ロビー等、共用部分の観葉植物等を管理し、美観及び憩いのスペース整備に努めた。	◎	◎
	警備	機械警備(夜間) 遠隔監視(毎日)	業務委託契約により実施 建物警備781,440(税込み)(3年契約2年目) (令和3年4月1日～令和6年3月31日)	○	○
	小規模修繕	日常点検において、必要に応じて実施する	貸出備品等簡易な修繕については、経費節減の為、自前で修理を実施した。	◎	◎
	法定点検の実施	年2回実施	9月、2月に実施	◎	◎
運營業務	開館日・開館時間等		・休館日利用者のニーズに対応し、大規模利用等で全館に近い利用がある場合は、開館する等、対応した。	◎	◎
	公共性・公平性の確保		ホームページをリニューアルし見やすい、解かりやすいレイアウト、最新情報の積極的な発信や空き室状況のリアルタイム更新に努めた。 月初の受付開始日に抽選制度を今年度も実施し、利用者の負担軽減と公平性の確保に努めた。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	パンフレットの配布及びチラシ等による広報	・パンフレットを館内各所に設置 ・ファミリーパックガイドブックに広告を掲載	○	○
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	12月、1月でアンケート実施	不満との回答はありませんでした。 労働図書館の認知度が低い	○	○
利用状況	利用者数	370,000人 [前年度:370,000人]	325,760人 [前年度:257,470人]	△	△
	施設稼働率	52.0% [前年度:52.0%]	46.9% [前年度:38.5%]	△	△

収支状況	収支計画と実績	(収入) 利用料金収入 34,234 千円 県指定管理収入 21,417 千円 共益費収入 14,330 千円 目的内収入 69 千円 企画事業収入 109 千円	(収入) 利用料金収入 40,942 千円 県指定管理料収入 25,085 千円 県補助金収入 2,991 千円 共益費収入 14,330 千円 目的内収入 69 千円 企画事業収入 81 千円 (支出) 人件費 34,582 千円 運営費 48,865 千円 企画事業支出 53 千円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	節電に努め経費の削減に務めた	節電効果により、デマンドを抑えることができた。	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者の苦情、クレーム対応について迅速且つ丁寧な対応を行う。	朝礼で相互報告を行い情報の共有化を図った。問題・課題について定期的に、全体ミーティングを実施し問題解決に取り組んだ。	○	○
	危機管理体制の確保	火災、台風、地震、衛生事故の危機管理マニュアルを更新し、管理体制の確立を図る。	・台風時の対応でマニュアルに基づき行動、対応、報告が実施できた ・実際に避難器具を使い高所からの避難を体験。充実した消防訓練が実施出来た。	◎	◎
	県・関係機関との連携	県や勤労福祉協会と連携を取る。	・随時、県や勤労福祉協会事務局と連絡を取り、連携を図った。また、今年度も入居団体も含めた全館での消防訓練を実施し、密接な関係づくりに努めた。	◎	◎
	業務の再委託の状況	専門的な知識や技能を要する業務については、業務委託により効率的に実施する。	・建物管理業務 ・建物保安警備業務 ・電気保守点検業務 ・昇降機保守業務 ・冷温水機保守点検業務 ・自動ドア保守点検業務 ・消防設備保守点検業務 ・駐車場発券機・精算機・カーゲート保守業務	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

利用者の立場にたった施設運営を行うとともに、改革意識を持って、日常業務に取り組めた。前年に比べ利用率増。新たな利用者を開拓するなど利用率のアップを目標に職員一丸となって頑張る。

来年度においては以下の内容を重点業務取組として運営を行う。

- ① 関係団体等への積極的な働きかけによる利用率・利用料金収入の向上
- ② 関係団体・地域団体との関係構築を通じた社会貢献活動の推進
- ③ 安全安心な利用のため4Sの徹底と設備管理の推進
- ④ ウェブサイト等を活用した積極的な情報発信
- ⑤ 会議室の多目的活用を促進するため、新たな備品等の整備

令和4年度 総合評価シート

評価者：産業労働部労政福祉課

施設名	兵庫県中央労働センター	現指定管理期間	令和3年～6年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県勤労福祉協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

・利用者アンケートの結果を踏まえた改善策の実施、FAX やメールによる申請システムの運用等、利用者の利便性を向上させる施策を実行した結果、利用者の満足度上昇に繋がった。パンフレットの配布等も工夫して行っており、新規利用者の開拓や、既存利用者の困り込みに尽力し、利用者確保に努めている。

・令和3年度に引き続き、令和4年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、消毒液の設置やマスク着用の呼びかけなど、利用者の安心・安全を守るための対応を行うなど、新型コロナウイルスの影響下においても利用者の立場にたった柔軟な対応を行っている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

令和3年度と比較して利用者数は増加しており、徐々に新型コロナウイルス感染拡大前の水準に近づいてきている。今後も県として引き続き必要に応じて適正な指導を行うとともに、利用者サービスの向上のため、良好な管理・運営の継続と、有効な広報、アンケート実施などの取り組みを求めていきたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B	B			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立姫路労働会館	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県勤労福祉協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	利用者の安全で快適な利用を確保するため、日常清掃及び定期清掃を実施する。	・専門業者に業務委託した。 清掃員が常駐(7:30～11:30 は2名、11:30～15:30 は1名)し、日常清掃を実施した。 ・ビニール床シートのワックス塗布やカーペットの洗浄、ガラスサッシ等の磨き清掃などの定期清掃は利用者の妨げとならないように、休館日に実施した(3か月に1回)。	○	○
	設備保守管理	・日常の管理作業と並行して施設や設備の巡回点検を実施する。 ・早期に異常を発見し、補修修繕費用の軽減及び長寿命化を図る。	・専門業者に業務委託した。 空調設備維持管理、冷暖房運転業務、空調機械等機器整備・保守点検、給排水衛生設備点検管理、消防設備点検管理、EV保守点検、自動ドア保守点検、電気設備保守点検 ・施設や設備の巡回点検を随時実施した。	○	○
	植栽管理	利用者の快適な利用を確保するため、駐車場等敷地内の植栽の剪定や雑草、落ち葉等の清掃を実施する。	・施設外周の垣根剪定及び高木の枝打ちを実施した。 ・落ち葉、雑草等の清掃・除草を実施した。(随時)	◎	◎
	警備	夜間機械警備(毎日)を実施する。	夜間機械警備を実施した。	○	○
	小規模修繕	日常の管理・点検に基づき、必要に応じて実施する。	随時実施した。 ・屋上冷却塔系統給水管漏水修繕 ・男子トイレ小便器詰まり修繕	◎	◎
	法定点検の実施	法令に基づき、点検を実施する。	・設備保守管理とあわせて専門業者により点検実施 ・貯水槽清掃(年1回)、簡易水道検査(年1回) 自家用電気工作物年次点検(年1回)、防火対象物点検(年1回)、消防設備点検(年2回)、EV定期検査(年1回)	◎	◎

運營業務	開館日・開館時間等	利用者のニーズに応じて休館日の変更及び時間外入館への対応等を実施する。	利用者ニーズに応じて休館日を変更しての柔軟な営業を実施(年間4回)。また会場準備のための早朝入館(8時)にも随時対応(年間115日)。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	HPによる最新情報の発信及び、空室状況等の情報提供を行う。	随時最新情報や空室状況をHPにて公開した。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	行政機関、経営者団体、労働者団体等の協力を得て「お仕事川柳コンクール」を実施する。	「新型コロナ感染拡大を予防する日常生活・働き方」にも焦点を当て、関係団体・報道機関の協力を得て第18回川柳コンクールを実施 【募集:11月1日～令和5年1月13日応募回数:291回】	◎	◎
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	利用者へのアンケート調査を実施し、管理運営の改善に反映させる。	・アンケート調査期間 令和4年10月3日～11月30日。 ※期間中、全利用団体へアンケート用紙配布	○	○
利用状況	利用者数	目標年間利用者数 289,000人 [前年度:253,953人]	利用人数 281,266人 目標数には及ばなかったがコロナ禍前の水準に回復しつつあり、前年度を上回った。	○	○
	施設稼働率	目標年間利用率 54% [前年度:46.3%]	利用率 49.4% 目標数には及ばなかったがコロナ禍前の水準に回復しつつあり、前年度を上回った。	○	○
収支状況	収支計画と実績	利用料金収入見込み額 19,122千円 県指定管理料収入見込み額 16,149千円 企画事業収入見込み額 109千円 目的内使用料 55千円	・収入 利用料金収入 21,215千円 県指定管理料収入 16,997千円(整備費除く) 企画事業収入 80千円 目的内使用料 56千円 ・支出 人件費 15,758千円 運営費 23,499千円 企画事業支出 80千円 目的内使用支出 56千円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	省エネへの取組(節電・節水等の実施)	事務所内間引き消灯、各階廊下、フロア部分の適宜消灯対応の継続実施	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	アンケートを実施し意見、要望を聞く。	アンケート調査を実施した。	○	○
	危機管理体制の確保	・危機管理マニュアルの整備 ・消防訓練の定期実施	・危機管理マニュアルの更新 ・年2回消防訓練を実施した。	◎	◎

	県・関係機関との連携	運営委員会を開催し、関係機関の代表者の意見をもとにさらに充実した運営を図る。	運営委員会を開催(令和5年2月)し、様々な意見をいただいた。	◎	◎
	業務の再委託の状況	専門的な知識や技能を要する業務については、業務委託により効率的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・建物管理業務 日常清掃及び定期清掃 空調設備維持管理業務 給排水衛生設備点検管理 ・乗用エレベーター保守点検業務 ・機械警備業務 ・自動ドア保守点検業務 ・電気設備点検業務 	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

<p>・今年度、インターネット環境の整備を行い、ホール、会議室等においてWi-Fiの利用が可能となった。また、施設についても日常的に目視点検を行い、老朽化が進んでいる設備の修繕工事を行うなど、利用者が快適に利用できる空間を提供することができた。</p> <p>・来年度においては以下の内容を重点業務取組として運営を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 積極的な情報発信による施設認知度の向上 ② 労使団体への働きかけ強化、新規利用先の発掘・誘致による利用率向上 ③ 施設の特徴を生かした会館主催事業の企画充実による利用の促進 ④ オンライン予約の導入やニーズを踏まえた備品整備によるサービスの向上 ⑤ 施設設備の日常点検と老朽化への計画的な対応による安全安心の確保

令和4年度 総合評価シート

評価者：産業労働部労政福祉課

施設名	兵庫県立姫路労働会館	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県勤労福祉協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・利用者満足度調査結果を基に、付属設備等の充実を図るとともに、利用者ニーズに応じ休館日も営業を実施するなど、サービスの向上が認められる。
- ・「お仕事川柳」の実施など、県民の文化的活動の促進につながる事業を継続的に運営している。
- ・利用者アンケートの結果を踏まえて会議室等の付属設備の充実を行うなど、利用者のニーズに沿ったサービスの向上に努めた結果、新型コロナウイルス感染拡大の影響下でも利用者数・利用件数ともに施設全体的に昨年度と比較し回復傾向にあり適正な施設管理業務が行われていると言える。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

令和3年度と比較して利用者数は増加しており、徐々に新型コロナウイルス感染拡大前の水準に近づいてきている。今後も県として引き続き必要に応じて適正な指導を行うとともに、利用者サービスの向上のため、良好な管理・運営の継続と、有効な広報、アンケート実施などの取り組みを求めていきたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B	B			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立但馬ドーム	現指定管理期間	令和4年(1年間)
指定管理者	(公財)兵庫県勤労福祉協会・全但バス(株)グループ	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持 管理 業務	清掃	・日常清掃及び定期清掃を実施。	○	○	
	設備保守管理	・以下のとおり設備の保守管理を実施。 ・自家用電気工作物保安管理(毎月1回) ・消防設備点検(総合点検年1回、機能点検年1回、防火対象物年1回) ・給排水設備(受水槽清掃年1回、水質検査年1回、汚水槽清掃年2回) ・空調点検(ボイラー年1回、空気調和機・全熱交換機・チラーファンコイル年2回) ・エレベータ点検(毎月1回) ・害虫駆除(年2回)	◎	◎	
	植栽管理	・随時実施。	・委託業者と連携し、状況に応じ除草・剪定を実施するとともに、職員による除草・剪定等も精力的に行い、安全性の確保や景観の美化を図った。 ・専門業者の指導を受け、芝生の維持管理を行い、利用環境の向上を図った。	◎	◎
	警備	・夜間機械警備(毎日)を実施。	・夜間の防犯・防災体制及び夜間緊急連絡体制を整備している。	◎	◎
	小規模修繕	・異常個所の早期発見・対応を図る。	・職員による日々の施設巡回、設備のメンテナンス点検を実施し、事故の未然防止等を図った。	○	○
	法定点検の実施	・上記設備保守管理のとおりに。	・上記設備保守管理のとおりに。	○	○

運 営 業 務	開館日・開館時間等	<ul style="list-style-type: none"> ・早朝開館、休館日の変更等柔軟に対応する。 <p>※ドーム棟グラウンドは大規模修繕工事のため、年間を通じて利用休止(5、6月を除く)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度を通じて早朝開館等、利用者のニーズに応じた柔軟な対応を図り、満足度の高いサービスを提供した。 	◎	◎
	公共性・公平性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・公平な利用機会を提供するため、以下のとおり情報提供を行う。 ・但馬記者クラブ(二八会)での記者発表 ・但馬内市町広報誌への掲載 ・但馬内情報誌(T2、FMジャングル等)への掲載 ・ホームページやSNSを活用した情報の早期発信 ・全但バス(株)関連施設での施設のPR、ラッピングバスの運行 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種情報媒体を通じて、リアルタイムでわかりやすい情報発信を行い、施設の特徴をアピールし、幅広い用途に利用されている。 	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	<p><利用促進事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・但馬ドーム×アウトドア2022ほか3事業を実施(内容等別紙のとおり)。 <p><自主事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラウンド・ゴルフ推進事業(但馬ドーム杯グラウンド・ゴルフ交流大会等)ほか4事業を実施(内容等別紙のとおり)。 <p>※ドーム棟グラウンドは年間を通じて利用休止(5、6月を除く)のため、芝生グラウンドやセンター棟を活用した事業・イベントを実施</p>	<p><利用促進事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドーム棟グラウンド利用休止のため、野外グラウンド等を使用して、4事業を実施。 ・ニュースポーツの普及や雪遊びなど新企画イベントを実施。 <p><自主事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラウンド・ゴルフ推進事業ほか4事業を実施。 ・グラウンド・ゴルフ練習会を通じて参加者の交流促進や一層の技術向上を図った。また、従来のドーム棟グラウンドでの開催に加え、新たに芝生グラウンドでも開催。 	○	○
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査(団体利用対象)は、ドーム棟グラウンドが年間を通じ利用休止のため、アンケート調査は実施しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査はドーム棟グラウンドが年間を通じ利用休止のため実施できなかったが、利用相談時や運営補助時に、直接利用者からの施設に対する要望やニーズを把握するなど、きめ細かな対応を行い、満足度を高めリピーターの確保を図った。 	—	—

利用状況	利用者数	目標 94,000人 [前年度:91,667人]	推計入園者数 63,094人	○	○
	施設稼働率	目標(多目的グラウンド) -% [前年度:74.4%] ※ドーム棟グラウンドは年間を通じて利用休止(5、6月を除く)	多目的グラウンド利用率 63.9%(5・6月実績) ・大規模修繕工事のため、ドーム棟グラウンド(多目的グラウンド)を年間にわたり利用休止とした。5月・6月は工事進捗により急遽使用可としたが、例年の利用分は戻ってこなかった。 ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら利用促進に取り組んだ。	○	○
収支状況	収支計画と実績	・収入(税込み) 利用料金収入 600千円 利用促進事業収入 50千円 自主事業収入 400千円 ・支出(税込み) 人件費 61,930千円 運営費 39,328千円	・収入(税込み) 利用料金収入 1,983千円 利用促進事業収入 20千円 自主事業収入 439千円 ・支出(税込み) 人件費 50,599千円 運営費 46,039千円	○	○
	経費節減に向けた取組	・見積合わせ等コスト意識の徹底を図る。 ・冷暖房、調光など日々の電気量の節減を図る。 ・水道メータを日々計測し漏水防止による節水を図る。	・数者見積合わせの実施、日々の巡回・点検の強化により修繕箇所の早期発見に努めた。 ・計画的な大規模修繕工事を実施したが、その他老朽化による緊急修繕費が嵩んだ。 ・こまめな冷暖房調整、調光調整等コスト意識の徹底を図った。	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	・職員間の緊密な報告・連絡及び必要に応じた幹部会、全体会を開催。 ・要望、苦情への迅速な対応及び要件に応じた協会事務局、県労政福祉課との協議による適切な対応を図る。	・全職員が適切な対応ができるよう情報の共有を図った。 ・安全、安心を第一に考え、利用者の立場に立った満足度の高いサービスを提供するなどホスピタリティの向上を図った。	◎	◎
	危機管理体制の確保	・危機管理マニュアルに基づき以下のとおり実施。 ・イベント等の事故に備えた職員対象のAED救急講習会の開催 ・イベント等への看護師の常駐や地域の医療施設との連携 ・コンソーシアムによる強固なバックアップ体制による危機管理 ・消防訓練の実施(9月:総合訓練、3月:避難通報訓練)	・年度当初に、危機管理マニュアル等研修を実施。 ・イベント時には、怪我、事故等に備えて常駐看護師を配置。 ・年2回の消防訓練を通じて危機管理体制の徹底を図り、利用者が安全かつ快適に利用できるよう管理運営を行った。 ・共同事業体である神姫バス(株)と連携し、イベント時の緊急対応体制を確立。	◎	◎

県・関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県、豊岡市、観光協会、商工会議所、商工会、但馬ドーム応援隊ファンクラブ等との緊密な連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会、運営協力者会議は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、会議形式での開催見送ったが、資料に基づく事業計画・実施状況及び利用状況等の説明を行った。 ・応援隊については、イベントのボランティアとして参加・協力を要請。 ・関係機関との円滑な協力体制のもと、継続事業の実施及び新たな事業の誘致等計画策定を図った。 	○	○
業務の再委託の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・以下のとおり委託。 ・三菱重工機械システム(株) (可動設備) — ・神姫バス(株)(清掃・設備保守) 5,196千円 ・日本管財(株)(輸送設備保守、機械警備) 1,848千円 ・全但バス(株)(利用促進) 1,000千円 ・シルバー人材センター(植栽管理) 1,000千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・施工業者や共同事業体の構成団体に委託し、不具合の迅速な対応を図るとともに、安定した維持管理等を行った。 ・大規模修繕工事によるドーム棟利用休止等により、業務量が削減され、委託料も減額となった。 ・工事進捗状況との調整等綿密な情報共有を図った。 	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

- ・令和4年度は、大規模修繕工事によるドーム棟グラウンドの利用休止(5、6月を除く)により、利用件数・利用者数は大幅に減少した。
- ・野外グラウンド等を活用した事業・イベントを実施し、グラウンド・ゴルフ大会、ニュースポーツの普及、雪を利用した事業など、幅広い利用者ニーズに対応するとともに、新たな可能性を模索し、一定の実績を上げることができた。
- ・計画的な修繕工事の実施により、施設の耐久性の向上、設備の更新など快適な利用環境向上を図った。
- ・4年度で計画修繕工事は終了したが、開館以来25年が経過し全般的に設備の老朽化は進んでおり、不具合や修繕・更新工事など今後も修繕費が増加することが懸念され、兵庫県、豊岡市と協議し対応を図っていく。
- ・令和5年度は、5年度から5年間の第5期指定管理を受託し、さらなる地域との連携強化や地域間交流を促進、森林やジオパークを活用したアクティビティやツーリズム等新たな魅力を創出するとともに、スポーツ・レクリエーションの裾野拡大、SNS等を活用した効果的な情報提供、広報・PR活動の強化を図り、安全・安心で快適な施設の提供とSDGsへの貢献を図っていく。

令和4年度 総合評価シート

評価者：産業労働部労政福祉課

施設名	兵庫県立但馬ドーム	現指定管理期間	令和4年(1年間)
指定管理者	(公財)兵庫県勤労福祉協会・全但バス(株)グループ	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

・施設設備の維持について、職員による点検、メンテナンスによる異常の早期発見と対応など、適切な管理を行うことにより、利用者の安全確保を図っている。

・令和4年度は大規模修繕等が実施され、修繕計画に沿って工事に対応する必要があるため、1年間非公募として指定管理期間を1年延長した。

・従来の年度であれば、グラウンドゴルフ大会の開催、広報誌、AM ラジオ、県内広域でのチラシ配布による宣伝活動等、利用者の取り組みに向けた施策を順次行っており、利用者数の増加に向け取り組んでいる。
また、休館日開館の実施等、利用者のニーズに合わせた施策を実施し、利用者満足度の向上に向けた取り組みなども行っている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

令和4年度は大規模修繕工事実施に伴いドーム棟を閉鎖していたが、令和5年度よりドーム棟を使用することが可能であり利用者数の増加が見込まれるため、今後も県として引き続き必要に応じて適正な指導を行うとともに、引き続き利用者サービスの向上のため、良好な管理・運営の継続を求めている。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B				

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和4年度 管理運営評価シート

施設名	丹波年輪の里	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫丹波の森協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所 管 課
清掃	清掃管理業務を令和4年度からシルバー人材センターに派遣委託に変更(一部直営方式)した。木の館・クラフト館内の清掃、屋外トイレ等の清掃、苑内の清掃、草刈り	業務の効率的な運用を行うため、日々行う清掃の細かな業務マニュアルを定め、来苑者が快適に利用できる環境を整えることができた。 苑内清掃 火～土(週5回) 施設内清掃 火～日(週6回)	◎	◎
維持管理業務 設備保守管理	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンシステム保守管理委託業務(経理システム及び事務所内ネットワーク、サーバトラブル等対応) 随時 ・電気設備保守管理委託業務(電気設備保守月例点検) ・消防設備保守管理(消防設備保守点検) 年2回 ・空調機保守業務(空調機点検季節変換時) 年2回 ・夜間管理業務 年 308 回 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンシステム保守管理委託業務 年額 290,400 円(税込み) パソコンシステム保守管理委託業務:不正アクセス防止はじめを円滑なシステム運用に努めている。 ・電気設備保守管理委託業務 年額 237,600 円(税込み) 電気設備保守管理委託業務:故障等の対応、電気に関する相談など良好である。 ・消防設備保守点検(年2回) 年額 106,700 円(税込み) 不良箇所を修繕済 ・空調機保守業務(年2回) 年額 145,200 円(税込み) ・空調機保守業務 平成 28 年度にほぼ全機種更新した。但し、レストランのみ旧設備であり、今後の対応を検討する。 ・夜間管理(年 220 日) 年額 1,257,625 円(税込み) 夜間管理業務:夜間の貸館業務に対応するため、午後 5 時 15 分～9 時 15 分の時間帯を夜間管理を委託。利用者のサービス向上に寄与している。 	○	○

	植栽管理	公園管理委託業務(①苑内の樹木の剪定2回、②樹木防虫剤散布2回、④除草剤散布2回等)	<p>・公園管理委託業務 年額 1,300 千円(税込)(R3 770 千円) 従前委託していた業者が撤退し、新たな業者との契約で 530 千円増となっている。 植栽管理では、景観の保全是もちろんのこと安全安心を旨として、防犯にも資するよう死角にならないような剪定も実施し、適切な管理に努めている。 また、職員自らが剪定等管理を行い、来苑者が気持ちよく利用いただくために、環境美化に努めている。</p>	◎	◎
	警備	機械警備委託(夜間及び休館中の無人警備) 防犯カメラの設置	<p>・機械警備委託(R3 年度より 3 年契約) 年額 323,400 円(税込み) 異常発報にも迅速・的確に対応し、安全管理の維持に努めている。 また、防犯上の抑止効果や事件発生時の記録を取るため防犯カメラを設置し利用者の安全確保に努めている。</p>	◎	◎
	小規模修繕	・必要に応じ修繕を行う(施設設備木部等腐朽箇所、老朽箇所修繕、機械機器定期点検等)。	<p>開園から 34 年が経過しており、令和 3 年度に当方が実施した木部劣化診断により、アトリエ B(北棟)の補強工事等を行なった。 屋外トイレ修繕工事(2 箇所) 5,958,700 円 アトリエ B 棟修繕工事 3,856,853 円 クラフト館渡り廊下修繕工事 560,560 円 屋外スピーカー修繕工事 87,780 円 工作機械修繕料 300,960 円</p>	○	○
	法定点検の実施	・自家用電気工作物保安点検 ・消防用設備等法定点検	<p>・自家用電気工作物保安点検 月次点検毎月 1 回、年次点検 1 回 異常なし ・消防用設備等法定点検 年 2 回 指摘なし ※業務委託により実施(設備保守管理欄に記載のとおり)</p>	◎	◎
運營業務	開館日・開館時間等	・開館 9 時から 21 時(夜間=クラフト館・木の館予約状況に対応)・毎週月曜日休館、年末年始(12/29~1/3)休館	<p>・施設管理規則に沿った運営に努めた。 ・今後も施設管理規則に沿った運営に努める。 夜間の利用のため、シルバー人材センターに委託し、利用者のサービス向上に努めている。</p>	○	○

	<p>公共性・公平性の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全安心を念頭においた施設運営 ・全世代に対応した情報発信 ホームページのお知らせ欄掲載の情報発信の充実 ・SNS の活用 ・スローガン「安全安心」「心地良さ」「創造をはぐくむ工作指導」接客の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯、事故の未然防止を念頭においた環境整備 ・各種イベント等の実施に向けては、インスタグラム、フェイスブック等の活用 ・新聞等紙面を活用した情報発信、毎月行事広告（神戸新聞丹波版、丹波新聞掲載）ほか ホームページでのわかりやすい内容の掲載 ・道の駅、県、市の公共施設等にパンフレット設置 ・丁寧な接客、木工の裾野を広げる施設の設置目的を念頭に置いた指導 	◎	◎
	<p>各種事業・プログラムの実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指定事業、企画事業、補助事業、林産指導事業の計画実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・指定事業 第6回たんば絵てがみコンクール、ゴールデンウィークフェスタ、平日グラウンドゴルフ、年輪友の会、丹波年輪の里グラウンドゴルフ大会、ギャラリーアトリエ、第34回丹波の森ウッドクラフト展、座っ展、緑の中のコンサート等計画どおり実施した。 ・企画事業 クラフト商品材料販売事業、木のなんでも市、自動販売機設置事業、レストラン運営委託事業、施設利便提供事業を計画どおり実施した。 ・補助事業 林産指導業務、運営委員会、クラフト教室、木材研修会、アートクラフトフェスティバ、情報収集広報事業を計画どおり実施した。 ・林産指導事業 木育活動（ひょうご森づくりサポートセンター事業）を中心として、木製玩具の貸出し（丹波市、丹波篠山市、猪名川町、芦屋市、神戸市、尼崎市の認定こども園、幼稚園等31箇所） や木製玩具のワークショップ（宍粟市、猪名川町等12箇所）を実施した。特に新たに尼崎市等エリアを広げ、「木育」の普及促進に努めることができた。 新型コロナウイルス感染症による規制緩和が進んでいることから、何れの事業も参加者等も回復傾向にある 	◎	◎

	<p>利用者満足度調査結果 (アンケート調査)</p>	<p>・利用者満足度調査の実施(随時)</p>	<p>アンケートにできる限り協力をお願いしており、良い評価を得ている。また、口頭でも同様の評価を聞いている。 今後は、イベント毎にできるだけ多くの利用者の意見を把握していく。 ・利用者から直接のご意見等をいただき、改善すべきところは、今後も改善に努めていく。 幼児から高齢者まで幅広い年齢層が楽しめる公園であることから、更なる魅力アップのため、利用者のニーズの把握に努める。 ・令和4年度から運営協議会の委員に利用者代表として2名(工作室利用者、アトリエ棟利用者)を委嘱し、利用者目線の率直なご意見をいただいた。 ・木育活動のアンケートでも好評価の意見が多く、次年度の改善に参考としている。</p>	○	○
<p>利用状況</p>	<p>利用者数</p>	<p>利用件数目標 3,500 件 [前年度:4,000 件 (実績 3,098 件)]</p> <p>利用人数目標 70,000 人 [前年度:97,000 人 (実績 58,917 人)]</p>	<p>利用件数 H30 3,641 件 R1. 3,412 件 R2 2,606 件 R3 3,098 件 R4 3,426 件 ※対前比 110.6%</p> <p>利用人数 H30 97,078 人 R1 74,029 人 R2 22,826 人 R3 58,917 人 R4 77,612 人 ※対前比 131.7%</p> <p>過去5年間の平均値を目標として設定したが、利用件数で目標に達しなかった。コロナ禍の規制緩和傾向を受け回復基調にある。 ・管内の公的施設等にチラシやパンフレットを配置やホームページ、SNS での発信に努めた。</p>	○	○

	施設稼働率	<p>会議室等 8室 22% [前年度:25%(実績 20.9%)] イベント広場 18% [前年度:20%(実績 14.3%)]</p> <p>(データ:利用状況報告3号)</p>	<p>H30 会議研修施設 22.9% イベント広場 20.4% R1 会議研修施設 21.3% イベント広場 18.1% R2 会議研修施設 21.4% イベント広場 12.3% R3 会議研修施設 20.9% イベント広場 14.3% R4 会議研修施設 22.4% イベント広場 20.2%</p> <p>過去5年間の平均値を目標として設定したが、施設利用件数等と同様に回復基調を受け、イベント広場、会議室等の目標は達成できた。管内に市や地域の集会施設などもあるが、更に手軽に利用できる施設としてPRに努める。</p>	◎	◎
収支状況	収支計画と実績	<p>(収入)</p> <p>利用料金等収入 2,255 千円 指定事業/補助事業参加収入 2,800 千円 指定管理料 78,085 千円 県補助金 3,014 千円 受託収入 990 千円 企画事業収入 5,570 千円 計 92,714 千円</p>	<p>(収入)</p> <p>利用料金等収入 1,836 千円 指定事業/補助事業参加収入 2,379 千円 県指定管理料収入 78,012 千円 補助事業収入 3,014 千円 受託収入 990 千円</p> <p>企画事業収入 4,408 千円 収入合計 90,639 千円</p> <p>(支出)</p> <p>人件費 54,243 千円 運営費 31,988 千円 企画事業支出 3,790 千円 支出合計 90,021 千円 収支差額 企画事業で、収支差額 618 千円</p>	○	○
	経費節減に向けた取組	<p>・職員のコスト意識、施設維持管理を適切に行い、コスト削減・環境負荷低減に努める。</p>	<p>職場会議等において、常に費用対効果、コスト意識をもって進めるよう職員にも指示しているが、経年劣化による修繕費の増加や物価高騰が続く中、これ以上の削減は難しい。その中でも優先順位をつけ執行している。</p>	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	<p>苦情要望等に対する迅速な対応、利用者とのコミュニケーション能力を高め、信頼関係を構築する。「まずは挨拶から」</p>	<p>苦情・要望については、迅速に対応している。特に問題になるような事象は発生していないが、利用者とのコミュニケーションを大事にし理解を求めることも多く、リピーターとは信頼関係が構築できていると自負できる。</p> <p>報・連・相の徹底、さらには毎月開催している職員会議での報告や協議を通して情報の共有に努めている。</p>	◎	◎

<p>危機管理体制の確保</p>	<p>県及び事務局への報告、応援要請連絡 職員連絡網の整備と防災気象情報の共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月初の自主点検や専門業者による点検などを通じて、危険箇所は迅速に修理・改修を行うなど、危機管理に努めた。 ・防災情報の発出と業務遂行体制を整理し共有した。 ・職員による定期的な巡回監視 	<p>◎</p>	<p>◎</p>
<p>県・関係機関との連携</p>	<p>丹波県民局、丹波市、(公財)兵庫丹波の森協会(丹波の森公苑、ささやまの森公園、丹波並木道中央公園)、木材製材業関係者等と連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県と丹波篠山市、丹波市で創り上げた「丹波の森構想」を一体的に取り組むため、また、これまで評価いただいているとおり、本苑の特徴的な機能であるクラフト創造活動の促進するため、森協会が受託している周辺県立施設や県民局、丹波市との事業に呼応、連携し、相互に協力していくことで、最も本苑の機能が発揮できると認識している。 (丹波の森ウッドクラフト展 兵庫県、丹波市と共催等々) (10/16 たんばワク・パク・ライド 丹波県民局) (10/30 丹波の森フェスティバル 丹波の森協会)他 ・兵庫県木材業協同組合連合会の委託事業を通じて、木育を推進する県の中心的な役割を果たしている。所属職員が兵庫県木育推進「ひょうごの木」利用拡大協議会木育活動推進部会副部会長に就任(事務局:農林水産部林務課) 	<p>◎</p>	<p>◎</p>
<p>業務の再委託の状況</p>	<p>設備保守管理において、ノウハウを持った業者等に再委託する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の県立施設との事業連携を強化するため、定期的な会議を開いている。 ・検討を重ねそれぞれ持っている特徴を活かした事業を展開(レーザー加工機を使った木製品利用等) ・パソコンシステム保守管理委託業務 ・電気設備保守管理委託業務 ・消防設備保守管理 ・空調機保守点検業務 ・夜間管理業務 ・公園維持管理委託業務 ・清掃業務労働者派遣 	<p>◎</p>	<p>◎</p>

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

- ・施設の修繕に当たっては、単なる修繕に留まらず、利活用の増進を基本として改修方針で取り組んだ。
(アトリエB棟の、従来の創作活動だけでなく、会議や展示会にも利用できるよう改修した。)
- ・施設開設から34年が経過し、経年劣化により老朽化が著しい。そのため維持管理に必要な修繕箇所が多く発生しており(報告済み)、それに伴う費用増加が今後の課題である。
- ・来苑者の安全安心な利用、さらには快適な環境づくりを基本として、施設の維持管理に努めてきた。(防犯カメラの設置・防犯、美化のための植栽の低木化、清潔・快適なトイレ修繕)、令和5年度でも防犯カメラの増設も検討していきたい。
- ・営利や効率だけを求める指定管理者ではなく、これまでどおり兵庫県と丹波篠山市、丹波市で創り上げた「丹波の森構想」の具現化を推進し、地域の関係団体とともに一体となって取り組むことで、施設運営にも生かしていく。
その一環として、苑内伐木処理について、木質バイオマス発電の活用に回すことにて、SDGsの取組も進めている。
- ・地域の中では、一番よく利用する公園として子どもから高齢者まで全世代に評価していただいていると自負している。(令和2年度丹波市によるアンケート調査による)賑わい、癒し、快適な空間づくりのため、これまで以上に、環境整備を行い、魅力的なプログラムを計画し、利用者の満足度を高めていく。
- ・利用者のニーズの把握するため、継続して運営協議会に利用者代表に参画いただいたり、アンケート調査の実施を広げていく。

令和4年度 総合評価シート

評価者：産業労働部労政福祉課

施設名	兵庫県立丹波年輪の里	現指定管理期間	令和3年～5年(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫丹波の森協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・施設維持管理運営業務においては、委託業務の契約額の見直しなど、適正に遂行されていると言える。また、職員の点検等により、故障箇所を早期発見し、大規模な故障を予防し修繕費を削減することができている。
- ・年間を通じて様々なイベント等を開催しており、また木育を推進する施設としての役割を果たすために事業を推進するなど、地域活性化に大きく貢献していると言える。
- ・丹波市が実施したアンケートでよく利用する公園施設として良好なアンケート結果を残すなど、幼児から高齢者まで幅広い層が利用できる施設として評価されている。
- ・今後も、利用者の多様化に対する柔軟な対応と利用者の求めるサービスの提供を行い、利用者の増加に努めるよう努力していきたい。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

令和3年度と比較し、令和4年度は利用者数も増加しており、今後も県として引き続き必要に応じて適正な指導を行うとともに、利用者サービスの向上のため、良好な管理・運営の継続と、有効な広報・アンケートの実施などの取組を促していく。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B	A			

総合評価指標（管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする）

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である